答辞

琉球大学大学院修士課程の修了を迎えるにあたり、修了生を代表してご挨拶を申し上げます。西田睦学長をはじめ、諸先生方のご指導を賜り、本日の修了式を迎えることができましたことに修了生を代表して心より深く感謝申し上げます。

　私は理学療法士としてリハビリテーション専門病院に勤めております。そこでは様々な疾患を抱えながらも在宅復帰、社会復帰を目指し懸命にリハビリテーションに取り組む患者様が入院しています。その中でも、疼痛により苦しむ方を少しでも改善させるための学びを深めたいと思い、琉球大学大学院医学研究科の分子解剖学講座に入学いたしました。本講座では疼痛のメカニズムからその治療に至るまでの基礎研究を実施しており、臨床業務のみを行なってきた私にとっては全てが新鮮でした。研究の計画から実験、オペや機器使用のための技術、統計処理、論文執筆、発表と未熟な私に対して、１からご指導していただいた高山千利教授、清水千草准教授、研究室の先輩方には改めて深く感謝申し上げます。また仕事と学業の両立が不安だった私に対し、その背中を押してサポートしていただいた、ちゅうざん病院の田島文博院長、千知岩伸匡療法士部長、愛知医科大学病院の尾川貴洋教授にも深く感謝いたします。今後は医療に携わる1人として患者様のためにここでの学びをリハビリテーション治療として実践しつつ、さらに発展させていきたいと考えております。

結びに、琉球大学のさらなる発展と、本日ご臨席を賜った皆様、またこれまで私たちを支えて下さった全ての方々のご健康とご活躍を祈念申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和６年3月19日

修了生代表

医学研究科　中山雄稀